

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定期的に職員全体会議の場などで理念を再確認のうえ共有化を図るとともに、日頃からの実践状況と照らし合わせ、今後の取り組みへ繋げるべく検討している。	職員全体会議で理念の意識づけを行い、参加できない職員は申し送りノートで確認し、サインも確認できた。管理者はケアの内容など職員から相談を受け理念の共有を行い、地域密着型サービスとしての「理念」について現況に則したものであるかどうかの見直し必要性についても管理者始め、職員間で話し合いが進行中である	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年、系列施設の合同祭(秋)を開催し地域の方をお招きする他、地区夏祭りや芋掘り・マラソンの応援・街頭募金の呼びかけ・ふれあいフェスタ等地域行事を通じて交流機会を大切にしている。	地域の募金活動への参加や日吉津村内のふれあいフェスタ・文化祭に利用者の作品展示を行う等、地域でグループホームの存在を理解してもらえよう管理者が率先して参加している。また、地域包括と相談しながら夏祭りには地域の子供や家族にパンフレットを配布し認知症やホームへの理解を求めた活動	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事に参加させて頂く際には、まずホームについて知って頂けるよう言葉かけや認知症ケアの資料配布など行った。ご来所の方へは随時相談援助により助言等行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度偶数月に開催し、ご利用者様ご家族様の代表・自治会役員の方・村役場福祉保健課担当者の方を交え、近況報告ならびに意見交換を行いサービス向上へ活かしている。	運営推進会議は定期的で開催されており、自治会長から「避難訓練には参加したい。津波災害時の対応、ホームの近くには消火栓がない事」等、貴重な意見が出される。ホームも非常災害時に利用者が速やかにホールから屋外や隣接している法人の建物に避難できるようにスロープの設置を行う等、会議で頂いた意見を速やかにサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ご利用状況等をお伝えすることで、市町村担当者さんを介し利用相談を承っている他諸用にて訪問される担当者さんとの意見交換等行うことを通じ、連携を図っている。	月に1回、村役場の生保担当者が来所され、調査を兼ねて利用者との様子伺いに来られる。管理者はホームの取り組み状況などを話し協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	“身体拘束・虐待防止検討委員会”を設け委員を職員の持ち回りとし、定期的に開く職員全体会議の場において議案提示や事例検討を行い意見交換を実施。拘束のないケアへ、確認と実践を行っている。	2月に1回職員の勤務体制に沿って委員会が開催され身体拘束をしないケアの理解に努めている。利用者の重度化に伴い、ベッド柵の使用についても検討されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「身体拘束をしないケア」同様に委員会活動を通じ、職員間で虐待防止の徹底につき啓発と共有を図っている。リーダー・サブリーダーもチーム内において日頃より注意を払い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者と職員何名かは外部研修において権利擁護について学ぶ機会を持ち、現在ご利用者様の中で制度活用しておられる方はおられないものの、今後も支援できるよう努めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や改定時には、ご説明のうえ不明な点や疑問に感じられる点など無いか確認を取りながらご理解頂けるよう、書面交付と併せて行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見をお寄せ頂ける旨を口頭ならびに玄関への書面掲示等にて周知している他ご家族様へ匿名でのアンケート協力を依頼するなど、承った意見を反映できるよう努めている。	利用者や家族が頂く意見や要望については、職員間で共有している。法人の会議でも報告・周知されており、法人が行うアンケート調査後も意見を反映できるよう職員間で話し合い、ケアに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝夕のミーティングやユニット会議他随時、管理者は職員の意見や提案を受け付け、多くの意見が寄せられており検討のうえ反映させている。 本部役職員による面談も実施している。	ホームの職員全体会議に法人即員も参加され、意見や提案を聞く体制が出来ている。管理者は職員との面談はいつでもできるようにしているが業務や利用者、家族の対応に追われるも、職員からの要望や意見を法人に報告し、反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績を考慮し、待遇面での反映に努めているほか、家庭状況等に配慮し可能な範囲で勤務調整等を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内につき勤務調整を行い、なるべく参加でき、希望にも応じて参加できるよう又参加者は共有を図るべく伝達を行っている。内部では法人主催の勉強会や救急講習会など開かれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会主催の相互研修へ参加できることがネットワーク構築に役立つとしている。近隣のグループホームとも意見交換を行っているが、今後もサービス向上のためにも交流を図っていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居頂く前に、ご挨拶と初回アセスメントを兼ねて訪問させて頂き、ご本人様のご意向等確認しながら関係構築に努めている。なるべく入居前にご本人様にもホーム見学を行って頂き、感想など尋ねている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム見学・概要説明時、入居申込時・訪問調査時など、その都度ご家族と意見交換を行い関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族様とお会いして支援方法を検討する中で、他サービスによる支援も効果的と考えられる際には助言等行い、実際他サービスをご利用になられている方もおられる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様と対等の立場で接することを心掛けている。調理の盛り付けや洗い物・洗濯物たたみなど家事と一緒に行動のみならず、気持ちの面でも互いに支えあえる関係であるよう目指している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様の状況を面会時他お手紙や電話にて報告しながら、支援上必要なご家族様の協力を得られるよう依頼し、共に支えていく関係構築を目指している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	具体的事例としてご自宅やお墓参りへの外出支援、通い慣れたお店での買い物、前サービス利用先への訪問等支援を行っている。電話や葉書も用いながら馴染みの関係を大切に頂けるよう努めている。	担当者が利用者の思いを汲み取り、通い慣れた店やスーパーなどに出かけたり、家族に電話されたり、はがきを出すなど馴染みの関係が途切れないよう支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の関係性に配慮し、席置の検討ならび職員の仲介的支援を適宜行いまた、家事(軽作業)やレクをご一緒に行って頂くなど関係が保たれるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居・入院先へ職員のみならずご利用者様と面会へ出掛けたり、同先の職員さんとも必要に応じて連絡を取り合い、相談支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なるべくご本人様のご意向に沿って生活して頂けるよう、関わりの時間を大切にしたいを汲み取れるよう努めている。意思表出が困難な方へも同様日頃の関わりから推測し検討を行っている。	利用者に寄り添い、意向や希望の把握に努めており、会話のむずかしい方には日々の関わりを大切に思いや要望を推測し、家族となし合いながら本人本位に対応されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前に、ご本人様ご家族様・サービス利用先から差支えない範囲でお伺いしている他、入居後においても普段の関わりやカンファレンス等を通じて、生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様ごとの介護記録をはじめ、アセスメントシート・介護計画書に記しながら、状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様とご家族様のご意向をふまえ、計画作成担当者ご利用者担当職員が主に携わりサービス計画書を立案し、カンファレンスにおいて意見交換を行ったのちに本計画書を発行している。	管理者や担当者が家族、利用者の意見要望を聞き介護計画作成が作成されている。モニタリングも毎月実施されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のご様子・過ごされ方と、介護計画に基づく支援とその結果を個別記録に記載するようにしている。朝夕の小ミーティングにおいてはこれらの情報を共有化している他、モニタリングへの反映に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当ホームは入所と短期入所ならび通所介護サービスの提供を行っている他、日々のサービス提供にあたって必要に応じて外出・面会支援や、行政機関との連絡・他事業所との連携等に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や地域行事への参加等を通じて結びつきを深めながら地域資源を見出し、ご利用者様へのサービス展開へ活かせるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には当ホームの母体となる医院との医療連携支援を提供しているが、ご本人様のご要望にて独自のかかりつけ医を受診されている方もおられ、ご家族の協力を得ながら医療機関との連携を図っている。	利用者や家族の希望に添い、希望のかかりつけ医の受診支援が行われている。主治医や協力医との連携、受診・検査結果報告は管理者や看護師が行い、家族への報告も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は毎日、ホームの看護職員と母体医院からの訪問看護職員へご利用者様の状態を伝えるとともに、都度指示助言を受けながら協働で支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	万が一入院された際には、面会へ出掛けその折近況等尋ねているほか、管理者は訪問および電話にて診療状況を確認し、当ホーム母体医院との連絡調整を図りながら退院後の支援体制を整え、早期退院につながるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの例は未だ無いが、法人としても終末期支援の方針があり、ホーム介護支援専門員・看護職員とご家族様で話し合いを行い、当事業所でできることの説明は基よりご家族様のご意向を確認しながら、医師へも報告をしている。	法人は終末期や看取りについて行いたい方針ではあるが、現場職員は事例が無い事から来る不安が隠せない。現在ターミナルに近い方が1人おられるが、週3回法人の病院から看護師の状態観察が行われている為、家族・利用者・職員は安心出来る状況である。	法人やホームとして、重度化や終末期に向けた方針を確立し、管理者始め職員・利用者本人・家族にも説明を行い、共有される事が良いでしょう。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に法人内で救急訓練を行っているほか、急変・事故発生時の初期対応をユニット会議などで再確認し合うとともに看護職員がご利用者様ごとに考えられるリスク等挙げ、留意を促している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、系列施設と合同で火災避難訓練を実施しており、村が主催する地震津波災害訓練へも参加を行った。避難訓練時には自治会役員さんへも参加を依頼した。	消防署と避難訓練を実施している。自治会は今年不参加であった。自治会は火災のときは駆けつけることができるが、津波のときは地域住民の誘導が優先となる事もあり、ホームが自力での避難に課題が残っている。備蓄はホーム外の倉庫と隣接する老施設に確保されている。	ホームが沿岸部の近くである事から、津波等の避難について、地域住民からの協力困難時の場合について法人での対応策が必要ではないでしょうか？

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重とプライバシーの保護を心掛け対応に努めている。職員間の会議においても具体的事例など議題に挙がっており、接遇につき確認と意識化を図っている。	2月に1回が会議が開催される。リーダーが指導して実践に繋げている。声かけは丁寧だった。トイレ介助時にドアが半開きだった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を話せる方はもちろん、表すことの困難な方へは日常の関わりから思いや希望の把握に努め、言葉かけ一つでも自己決定がなされるよう工夫していきたいと考えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはおおまかにある中で、その中でもどのようにお過ごし頂くのかご本人様へも尋ねながら、なるべく希望に沿えるよう調整し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った衣類を、自己決定できる方には選んで頂き、それが困難な方へは以前の好みなどを参考に支援している。洗顔・髭剃りは基より、ヘアカットの依頼や衣類の買い揃えへも応じている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	2週間に一度、順番にお好みメニューの日を設けてご本人様に伺い提供している。又、言葉かけ見守りのもと調理の下準備や片付けを一緒に行っている。外食機会も設けられるよう支援している。	利用者の重度化が進んでいる事も有り、職員と一緒に準備や後片付けが難しくなってきた。食事介助時利用者への声かけや職員との会話も少ないと感じられた。	利用者が座って出来る範囲で、できる能力を引き出しながら、食事を「楽しみ」や「楽しむ」時間に出来る様努められると良いでしょう。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人に勤める管理栄養士作成の献立を基に調理し提供。食事・水分摂取量の確認を基に不足されないよう留意し、看護職員とも連携を図り、食事形態も個別に検討と支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人様の状態に応じて、言葉かけ～全面支援にて口腔ケアを行っている。義歯の調整、痛み等変化が見受けられる際にはご家族様・歯科医院と連絡調整を行い、不快感の解消を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自らトイレへ向かわれる方・尿意を示される方へは見守りと支援を行い、ご自分では困難な方へは排泄確認表を基にしてトイレ案内を行っている。排泄製品使用にあたっては話し合い検討のうえ使用している。	利用者の様子を見ながら付き添い、トイレ介助や見守りが行われていた。排泄のパターンや習慣を把握し、自立に向けた支援も行われていた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や繊維質の物を多く摂取して頂けるよう、水分補給を兼ね毎朝に牛乳をお勧めもしている。排泄記録表を基に便秘時には看護職員へ相談し都度対応を実施。屋内における運動も取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2~3回入浴して頂けるようご案内している。入浴を拒まれた際には他ご利用者様への案内等により調整をした上で、翌日に再び入浴案内を行うなど支援している。	希望時又は定期的入浴が楽しめる様にしえんされている。デイサービスの利用者含め、入浴拒否のある場合は、職員がタイミングをみながら入浴ができるように声かけを行い、個々に添った支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自分のペースをお持ちで休まれる方へはもちろん、移動支援を要する方へも適宜言葉かけ確認と休息案内を行っている。就寝時は居室温度や布団の掛け方へ気を配り安眠できますよう留意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局よりお薬が届いたら、一人ひとりのお薬説明書を確認しながら準備している。服用にあたっては変化の確認に努め、看護師と連携しながら薬を扱っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様個々に可能な範囲で役割をお願いしているほか、季節ごとの行事により得意事を活かして頂きながら、また気分転換ともなるよう配慮し支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日曜日は入浴をお休みとさせて頂き、外出支援機会を多く持てるようにしている。集団での外出・個別の支援も行っており、ご家族様の協力により外出外出される方もおられる。	村内にある大型スーパーや大田等へ希望者でドライブしたり、地域のコンビニへ買い物、大好きなアイスクリームを食べに出掛けたり、受診帰りに本人希望で自宅近くの商店へ買い物に寄ったり、家族と一緒に外食を楽しんだり、外出の機会が多く待てるように支援に努められている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお小遣い程度の額を管理されておられる方もおられれば、管理が困難な方へは事務所で管理代行し、外出時やお買い物の際使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも掛けられるようホールに設置しており、ご家族様との連絡を希望される方も数名おられ、ダイヤル操作等支援している。手紙も同様希望に応じて代筆等支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールに季節の花を飾ることや、折り紙を用いた装飾をしているほか、室内温度と湿度に留意し適宜調整を行っている。ホールにおいても場所により光や体感温度差が大きく、確認を取りながら席置も適宜検討を行っている。	ホールの畳の間には季節の生花が生けてあり春が感じられた。玄関や食堂には季節の飾り付けや外出、行事の写真が飾っており、和やかな空間と感じられた。照明や室温も過ごしやすく、配慮がなされていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様の入退居や状態変化に応じて、テーブルや椅子の配置を検討し気の合う方同士で過ごせられるように都度工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある物品をご持参頂けるよう依頼をしている他、家具などの配置に関してもご本人様の状態に応じて、使い易いよう検討を行っている。	利用者の居室には、家族の写真や筆筒、姿勢鏡など使い慣れたものが持ち込まれ、本人の使いやすい様に整えられていた。転倒防止の為ベッドの高さ調整、床にカーペットを敷くなど配慮もなされていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内に洗面所があり、トイレは居室を出てすぐのところにある。入浴場にはのれんが掛けられているほか、ホールから玄関が見えるので出入りしやすくなっている。		